

あぜがみ順平の考える
“スマート田園都市・越谷”構想

「つながる」 「楽しむ」

「暮らす」まちから
「人生を選ぶ」まちへ

こしがや未来通信 2.0

越谷で誰かと「つながる」

「緩いつながり」「多層的なつながり」を増やし、地域の誰かとつながっている状態をつくり出します。強いつながり、強制的なつながりだけの地域内関係は多くの孤立者を生み出します。行政がハブとなって、さまざまな地域との接点、情報の受信発信を行ってまいります。

自治会を人と人がつながる場に 時代に合わせて進化させます

地域の交流や共助の場として自治会の役割を大切にしながら、時代に合った形に進化させていきます。役員の高齢化に対応するため、若い世代の参画を促すとともに、会計処理や連絡業務などのデジタル化を支援し、役員の負担軽減を図ります。あわせて、防災機能の強化にも力を入れ、備蓄や訓練体制への支援を拡充します。自治会を、誰もが関わりやすく、安心とつながりを実感できる場として再構築していきます。

多文化が調和するまち越谷を 支援と連携でつくります

外国人が地域とつながれるよう、多文化交流センターを拠点に、日本語学習や生活相談、子どもの教育支援、多言語での情報提供を充実させます。地域イベントや学校との連携を進め、外国人を雇用する企業を通じて、交通ルールや日本文化の理解促進に取り組み、出入国在留管理庁や警察と連携して実効性のある取り組みを展開します。

地域の力で地域を支える仕組みを整えます

少子高齢化や人手不足が進むなか、地域の課題を行政だけでは解決することが難しくなってきました。だからこそ、自治会や NPO 等が地域の担い手として、安心・安全や生活支援、まちづくりに主体的に取り組める仕組みが必要です。地域の特性に応じて活動する団体を「指定地域共同活動団体」として位置づけ、一定の公的役割を担うことで、財政的・制度的支援を行う新制度を導入します。これにより、地域に根ざした支え合いと課題解決を市役所と共に進める体制を築きます。

討議資料

越谷を徹底的に「楽しむ」

地域資源と市民の力を活かし、毎日笑顔があふれるまちをつくりまします。活気のない越谷のムードを上げるためには、市民の気持ち上がるシーンやシチュエーションが必要です。市長自らがムードメーカーとなり、越谷の楽しい雰囲気発信していきます！

「スポーツのまち・越谷」にします

プロスポーツチームが地域にあることは、大変恵まれていると私は思います。越谷アルファーズとの連携をさらに強化し、越谷市内にアリーナを新設し、その活用を進めることで、プロバスケットボールを核とした「バスケのまち越谷」を実現します。チームカラーの“バーガンディ”をまちに広げる「アルファーズロード構想」により、南越谷駅・新越谷駅周辺を一体感ある応援空間として盛り上げていきます。バスケットボール以外にも、野球やサッカー等、地域ぐるみでスポーツを楽しみ、応援する文化を育み、まちの魅力や活力を国内外に発信していきます。

にぎわい拠点の創出とエンタメ文化の醸成

越谷サンシティの再開発を機に、南越谷地区に新施設を建設し、地の利を活かして、エンタメの発信拠点として、新たなにぎわいを生み出すように整備します。また、南越谷駅前をロータリー広場として、歩きやすく集いやすい空間へと再編し、夜間も安心して過ごせる健全で魅力的なまちをめざします。地域のにぎわいと市民の安心を両立させるため、ナイトタイムエコノミーと治安対策の両立に取り組みます。

市民参加と地域力・次世代を育てる まちづくりを進めます

市民自らが企画・発案したイベントを、公式イベントとして位置づけ、市の補助制度や広報支援を通じて全面的に後押しします。また、「千足アウトドアビレッジ」構想を進め、農村部の景観や資源を活かした宿泊・農業体験を通じて、都市と農の交流による地域活性化を図ります。地域に根づくスポーツ文化の継承にも力を入れ、「三宮卯之助杯ウエイトリフティング大会」(仮)を継続開催し、競技の魅力と越谷の誇りを次世代に伝えます。